

第 33 回 CASCO CPC 会合報告

報告者: (一財)日本規格協会 中川 梓

日時: 2020 年 5 月 6 日 19:00-23:30(ジュネーブ時間 12:00-16:30)

7 日 19:00-23:00(ジュネーブ時間 12:00-16:00)

場所: ウェブ会議

出席者:

CPC メンバー25 名(SA, BSI, JISC, DIN, AENOR, IIOC, AFNOR, SABS、SNV, IEC/CAB, SCC, SAC, ILAC, ABNT, ANSI, IAF, IQNet, TIA 等)

CASCO 議長/副議長、CASCO 事務局、CASCO 関連 WG 主査

議論のあった事項を中心に報告。

- 議題 5 Report of the last meeting

事務局長より follow up action の進捗状況について説明。特にコメントなし。

- 議題 6 Strategic issues

<6.1 Task group on future of CASCO toolbox -Recommendations>

主査(Cynthia Woodley)より 2/26-27 に実施された会合の結果及び CPC への推奨事項を説明。

CASCO 議長からは、多くの事項を議論し充実した会合となったとのコメント。

CPC への推奨事項は 3 項目あり、

(1)スキームを構築し、運営し、維持する方法についての文書の開発

CASCO tool box がうまく使われていないという問題意識、スキームオーナーが best use できるようにという意図によるもの。

IAF で既に開発されている文書(認定機関がスキームをどのように評価するか)が、この活動へのインプットとして利用できるとのコメントあり。

(2)CASCO tool box に関する TG の継続

種々の適合性評価の共通部分を整理し、base document を作り、規格の開発側、利用側の双方で効率化をはかりたいという意図。

各規格の重複を無くし効率化を図ることに関し賛成意見多数。

なお、推奨(2)に TG のメンバーシップを CPC 外に広げ開発途上国代表を含めるというものが含まれているが、拡大については反対意見はなく、追加を開発途上国に限定するのではなく、バランスのとれた構成とする意図であることが確認された。

(3)ISO9001・14001 等で作成されている Expected outcome に類似する冊子の作成
IAF から賛意(同様の計画を持ったことがあるとのこと)

CPC は TG の推奨事項に賛成をし、引き続き細部の検討を求めることとした。

<6.2 2019 Plenary session on developing countries challenges to participate – follow up of outcomes>

2019 年 CASCO 総会で、開発途上国の標準化への参画を強化されるための session が行われ、その結果に基づき CASCO が取り組むべき優先事項とそれらにどのように取り組むかを検討する Task Group を設置することが CASCO 事務局より推奨された。

CPC からは反対意見はなく TG の設置に合意。開発途上国代表(KEBS)の CASCO 副議長が主査。なお、開発途上国だけの問題ではないことから、CASCO メンバーから広くメンバーを募り、事務局と副議長で、利害及び地域のバランスをとったチームを結成する。

<6.3 CASCO Priority Achievements>

事務局長より、2016–2020 の実績/進捗(大きな問題が見られない等)、本年が最終年であり Strategic review の結果に基づき次の 5 年(2021–2025)の計画を策定する等の説明があった。CPC メンバーからは COVID-19 の影響で、2020 年の実績及び 2021 年の計画に影響が出るのではないかとの懸念が示された。事務局長からは、規格類の売上げ減から ISO への membership fee が減少する等で財政状況が悪化することはあり得ることであり、ISO 職員もテレワークをしており、今後の業務遂行に何の影響もないとは言い切れないとのコメントあり。

<6.4 CASCO Roadmap>

コメントなし。

<6.5 Strategic review of CASCO structure>

2008 年以降 CASCO の構造(体制)は変更されておらず、レビューも行われていないので、有効に機能しているか、時代に適応しているかの観点で見直しを行いたいとの趣旨。

TG を作り検討を行うことに反対はなかったが、戦略の検討と連動して検討を行うべきとの意見があった。

<6.6 CASCO Chair's report>

CASCO 議長が資料に沿ってレポート。CASCO policy group の活動、開発途上国支援等の概要、COVID-19 の影響等を説明。

<6.7 Update on Council Standing Committee on Strategy and Policy (CSC/SP) 2020 Work Program implementation>

CASCO 議長より報告。ISO 理事会傘下の政策委員会の議長として、理事会及び政策委員会 (CSC/SP) に出席し、ISO 戦略 2030 に関する議論、DIN が提案するパイロットプロジェクト (smart manufacturing における SMART 規格の前提条件として、product property を統一しようというもの) に関する議論等に参加したことが報告された。また、ISO は標準化団体の集まりで必ずしも適合性評価の重要性が理解されない場合もあり、CASCO 議長として、積極的に理事会の議論に参加していきたいと思っていると述べた。

<6.8 Postponement of the plenary>

総会を 2021 年 1 月に延期し、TIG/STAR25 日、GPC26 日、総会 27-28 日、ワークショップ 29 日の予定であるとの説明。CPC メンバーからは状況の不確定さから開催を危ぶむ、あるいは再度延期の場合どのタイミングで決まるのかといった声もあったが、事務局からは状況をみつつ、適時に判断するとの回答。

<6.9 PROC 01 updates on CASCO and CPC ToRs>

改定案は、editorial な修正とともに、適合性評価の対象として要員 (personnel) を追加し、適合性評価の種類に validation/verification を追加する内容。事務局案は種類と対象を区別していない内容だったが、BSI より整理した修正案が出された。

上記に加え、WG 主査 (Cynthia Woodley) より、WG 主査は CPC で何を代表するかとのコメントがあり、所属する NSB ではなく、該当する WG としての expertise を代表するとの確認があった。

なお、CASCO の構造 (体制) の議論がこれから行われることから、その後、ToR の修正を行うことになる可能性もあるため、現段階で改定をしなくてもいいのではないかとの意見もあった。

<6.10 IIOC/IQNet proposal – CASCO to support the use of remote conformity assessment techniques>

IIOC 及び IQNet から、COVID-19 の影響を考慮し、CASCO からリモート審査の活用を促す何らかの対応をお願いしたいとの要請。リモート審査は現行の適合性評価で許容されている手法であるが、必ずしもポジティブに受け止められていない (信頼されていない)。今回の逆境はリモート審査が有用であることを示すいい機会である。リモート審査は安全で、コストの低減にもなる等、ステークホルダーの理解を促し、もっと活用されるように、CASCO はマーケットに向けてメッセージを出すべきだろう。

リモート審査に関しては、IAF が MD4 を 2018 年に発行しており、食品安全のためのリモート審査に関する informative document も作っている。また IAF と TC176 で APG 文書も発行している。CASCO は適合性評価に関する要求事項を作るが、ハウツー文書 (リモート審査のやり方) を作る立場ではないだろう。しかし影響力のある立場にあり、CASCO のメッセージは重要である。

上記のような議論に基づき、CASCO としてステークホルダーに向けての文書を準備することとし、それに向けて、小グループを作り CASCO メンバーから関連の情報を集めることとした。

<6.11 CPC and Working Groups remote meetings>

議論なし。

<6.12 Project to identify co-convenors from emerging CASCO NMCs>

ISO/TC でも twining やワークショップ等で capacity building をしているが、CASCO でも同様に新興のメンバー国から convenor を養成したいとのこと。CPC メンバーは賛意を示し、WG の現コンビナ、コンビナ経験者各位からも協力するとのコメントがあった。

● 議題 7 External relations

<7.1 Update on Policy Development Committee coordination (CASCO-COPOLCO-DEVCO)>

CASCO 議長より、2 月の理事会の折に COPOLCO,DEVCO 議長と会合を持ったことが報告された。

<7.2 Update on IEC CAB>

資料提示。特に質疑なし。

● 議題 8 Plenary and workshop

<8.1 Follow-up 2019 plenary resolutions>

資料提示のみ。

● 議題 9 Policy groups reports

<9.1 Strategic Alliance and Regulatory Group (STAR)>

STAR 会合の報告。調達/公共調達向けの説明資料(brochure)の最終案ができたこと、ToR を改定するが大きな変更ではないこと(CPC の承認が必要で後日通信投票とのこと)、ステークホルダーマップを作る計画であったが COVID-19 の影響で方向性を変え、リモート審査の方法やベストプラクティス等、いろいろな情報を収集しステークホルダー向けに発信する計画であることが説明された。

<9.2 Technical Interface Group (TIG)>

TIG 主査が以下のような活動概要を報告。

- ISO/TC207/SC3 : neutrality principle の「例外を支持しない」と TMB に表明し、継続議論中
- ISO 20000 を IT realm の外のサービスも対象とするかどうか: 継続議論中であるが、IT のみと
するように努めている
- ISO/IEC Directives, Part2 の clause33 の改定案: 作業中
- ISO/TS 21002 の開発(教育機関の MS に対する認証): 17021-1 の sector application で
TC292 と CASCO のジョイントで開発
- 新規分野への対応: AI に関する MS (JTC1/SC42) や Industry4.0 等、適合性評価がどのよう
に貢献できるか継続して関与・検討する
- TC215 が NWIP を計画(モバイルヘルスアプリの適合性評価に関するガイダンス): どのような形
の適合性評価にできるか、検討に関与

- 議題 10 ISO Research and Innovation

ISO/CS Research and Innovation Unit の活動概要の説明

- 議題 11 Working group reports

<11.1 JWG 36 food safety management system certification>

共同主査の Mr. Alister Dalrymple が報告。

COVID-19により食品業界は大きな影響を受けており、JWG36に参加するメンバー(スキームオーナーや食品関連メーカー等)も対応に追われている者が多いため、5月予定の会合をキャンセルすることになった。開発中の2規格(22003-1及び22003-2)の発行時期をできるだけ合わせるため、22003-1の改定発行をできるだけ遅らせるようにしてきたが、会合キャンセルの影響で、開発期限を延長する必要がある。

<11.2 WG 49 terms and definitions relating to conformity assessment>

作業完了し、ISO/IEC 17000 が 5 月 26 日 (?) 発行予定。

<11.3 WG 55 third party marks of conformity>

2019 年末に活動開始。

<11.4 JWG with TC212 revision of ISO 15189>

ISO 15189 を改定中。4 月に CD コメント。多数のコメントあり、次回会合(6月初)で対応予定。

- 議題 12 その他

<12.1 Zoom session with CASCO members on outcome of WG and policy meetings>

開発途上国の NMC あるいは新興の NMC に対し、CASCO 関連の情報提供や capacity building を行うことを計画している。副議長 (KEBS) によると、開発途上国のメンバーは投票の際に何の情報・知識もないため abstain とすることも多いので、きちんとした知識を持った上で、適切な投票ができるようにしたいということが、今回の計画の発端。議長/副議長、事務局で具体的な計画を作るとのこと。

<12.2 Joint ISO-ILAC Communiqué – ISO/IEC 17025:2017 Transition>

ILAC より説明。COVID-19 の影響を考慮し、すべての認定された試験所が移行を完了できるように、移行期限を 2020 年 11 月 30 日から 2021 年 6 月 1 日に延期するとのこと。

<12.3 FDIS 14016>

IIOC より会議冒頭に議題追加要請あり。14016 は FDIS 投票中であるが、14065 (及び 17029) との間に inconsistency がある。14065 や 17029 は認定に使われていることもあり、このような不一致はユーザーにとって不都合。なぜこのような不一致が同じ TC207 の傘下で起こるのかという問題提起 (報告者注: DIS 投票で不一致に関するコメントがあり、これを受け入れ、17029 にアラインさせる決定がされている)。

TIG 議長 (TC207 にも関与) が状況の説明。TC207 は巨大な TC で傘下の SC が独自に動いており、用語/定義などがアラインしていないことがある。14065 は SC7 が開発し、CASCO とも連携した。そして 17029 が開発された際、sector application とすることを決定し、17029 にアラインさせた。14016 は SC2 が開発しており、assurance という financial 分野の言葉が使われる等、SC7 とは異なる動きをするし、CASCO もカバーできていない。14016 に限って言えば、ガイドラインであり、14065 や 17029 と用語/定義が一致しない部分はあるものの根本的には同じなので、マクロでみると何の問題もない。とはいえ、CASCO としてこういう問題を解消するように働きかけていきたい。

● 議題 13 次回会合の日時と場所

2021 年 1 月 26 日 於ベルリン (CASCO 総会ウィークの 2 日め)

ただし状況により、総会が virtual に切り替えられる可能性もある。

以上